平成２９年度 第１回 佐倉市立美術館運営協議会

議事録

日　時：平成２９年９月９日（土）　１５：００～１７：００

場　所：佐倉市立美術館　４階会議室

出席者：以下のとおり

（委　員　９名）
　大久保委員、齊藤委員、田中委員、豊田委員、長澤委員、
　樋田委員、真木委員、安本委員、吉村委員
（美術館職員　６名）
　宍戸館長、永山主査（学芸員）、本橋主査（学芸員）、小廣主査、
　黒川学芸員、西川主事（学芸員）

会議次第
１．開　　会
２．あいさつ
３．会長・副会長の選出
４．報告事項
（１）平成２９年度人事異動について（公開）
（２）平成２８年度事業報告について（公開）
（３）平成２９年度事業計画等について（公開）
５．その他
６．閉　　会
・展覧会鑑賞（柴宮忠徳展）

【２．あいさつ】
＜館長よりあいさつ＞

【３．会長・副会長の選出】
・会長に樋田委員、副会長に齊藤委員を選出した。

【４．報告事項】

（１）平成２９年度人事異動について
＜館長より説明＞

（２）平成２８年度事業報告について（資料４～５頁）
＜事務局より説明＞

（会長）
平成２８年度事業について、報告していただきましたが、何かご意見はございますか？
（委員）
「カオスモス５」が、ＮＨＫの新日曜美術館のアートシーンで紹介されていましたが、動員数が増えるとか、何か効果はあったのでしょうか？
（美術館）
放送日が展覧会終了の一週間前であったので、徐々に効果が出てきている途中で会期が終了した感じです。この展覧会については前回の運営協議会でご指摘いただいたように、開催期間が少し短すぎたように感じています。
（委員）それは惜しいというか、もったいないと思います。時期としては春休みの良い時期だった訳ですから。
（会長）
一ヶ月とはいっても、休館日などがありますから、実質２４日ですからね。
（委員）
先日、東京藝術大学美術館で「明治の細密工芸」を展示したりしていますが、それの現代版を観ることが出来て、興味深い展示だと思いました。

（委員）
昨年度の春と秋の収蔵作品展では、入場者数に随分差があるのですが、何か理由があるのでしょうか？

（美術館）
収蔵作品展を観に来られる方々は、地元の美術ファンが多いと思われます。春の収蔵作品展「佐倉ゆかりの作家と工芸」のチラシには堀柳女の人形が使われていましたが、何が展示してあるのか分かりやすいものでした。その意味では、秋の収蔵作品展「ｍｅｍｏｒｉｅｓ」では、美術館のシルエットに吹き出しをつけるなど、これまでにない新しい試みを取り入れたのですが、それに戸惑われた方が多かったのかもしれません。
（委員）
確かにポスターに何が掲載されているかということは重要かもしれませんね。作品のイメージが入っている方が外さない気がいたします。
（会長）
堀柳女の人形のファンが多いということですね。確かに新しいことを思い切って実行すると、裏目に出てしまうことがあるかもしれません。新しい視点で捉えなおしていくことは重要ですから、一回で結果が出なくても、定着するまで諦めずに続けてください。変化することの出来ない美術館は結局、廃れていってしまうものかもしれません。

（会長）
「アート・プロジェクト」について、社会にどれ位定着したとか、どのようなリアクションがあったとか、少し振り返っていただいても良いでしょうか？
（美術館）
昨年については、休館しておりましたので、学校との連携については期間が短くなっております。ただ、休館中も出前授業は続けておりました。また、昨年は二期生、今年は三期生のボランティアの募集をしましたが、一期生の時ほどのインパクトは無いかもしれません。一期生の時は定員２０人に対して５０人の応募があったのに対し、二期生と三期生については各１１人の応募しか無かったので、応募者をそのまま受け入れました。また、これまでは地元の方が中心であったのが、三期生では半分が佐倉の方で、それ以外は群馬、東京からの参加です。定年退職した先生方が応募してこられたのも印象的でした。
（会長）
なかなか数値化しにくいと思いますが、これまで続けてこられて何か手ごたえを感じるようなことはありますか？
（美術館）
今年度についてはリピーターが多いということです。また、ボランティア同士も良い仲間というか、良い雰囲気で活動が出来ていると思われます。

また、学校連携事業で来た子どもが「ミテ・ハナソウ展」に親を連れて参加してくれたりしました。小学生を対象に何度も実施してきたことから、中学校を訪れた際、「ミテ・ハナソウ展」を小学生のころに体験したという生徒も増えてきました。少しずつですが、種蒔きが実を結んできたなという感触はあります。
（会長）
それは良い傾向ですね。
（委員）
私の知人も「ミテ・ハナソウ・カイ」のボランティアに参加しているのですが、ボランティア自身も色々学ぶことが出来て楽しいと言っていました。

（委員）
３階の市民ギャラリーの利用については、倍率は高いのですか？また、借りるにあたって審査等はありますか？また、抽選がありますか？
（美術館）
美術館には、主催事業と、市民にご利用いただく市民ギャラリーの貸出しという機能があります。茅ヶ崎市とか川越市等に行くと、それぞれが違う施設を持っているのですが、当館はその二つの機能を持っているわけです。
企画展や「市民文化祭」等の主催事業で３階展示室を使用していない時には、市民ギャラリーとしてお貸ししております。３階展示室も第１室、第２室、第３室と別れておりまして、一部屋ずつでもご利用いただけます。貸し出す週はほぼ埋まっておりまして、回転率は良いと思われます。申し込みが重複してしまった場合は抽選となりますが、三つの部屋を同時に利用するのでなければ、場所や日程を少しずらしていただくことで調整させていただいています。
作品の審査もございませんので、陶芸が重なってしまうと駄目ということはございません。公民館で発表なさっていた団体が何年かに一度、使ってみようという場合もあるようです。
（会長）
以前と比較して貸出しの状況は活性化していますか
（美術館）
多少、増えてきているようです。毎年ご利用いただいている団体のほか、「アート・フォト・サクラ」という写真の公募展を開催していた影響なのか、写真の団体や個人の利用がここ数年増えているようです。また、県内の市立美術館というと、当館や千葉市美術館がありますが、印旛郡内、八街市といった近隣には美術館が無いため、その地域の団体が当館へ申し込みをされるケースもあるようです。ただ、市外の方が利用される場合は割増料金となってしまいます。

（会長）
各団体が、自分たちの発表の場として、この美術館を使いたいと考えて下さっているのは、ありがたいことですね。こういう方たちの支援の輪がないと、地方美術館というのは成り立たないと思います。
（委員）
東京都美術館は最近、貸館事業の団体展と企画展のクロスオーバーが出来ないかと考えているようです。団体展に所属する優秀な作家を美術館が選抜し、企画展を実施するというもので、美術館の眼で公募展を再編集するという意図があるようです。東京都美術館は貸館としての歴史が長いので、比較にはならないかもしれませんが、佐倉市立美術館の「新春佐倉美術展」は佐倉美術協会との共催ですよね。将来、この美術館でも東京都美術館のような企画展を検討しても良いのかもしれません。山車や竹工芸など、佐倉ならではの表現を見出すのも面白いかもしれません。貸館は貸館、美術館は美術館ではなく、何か共に生み出すことが出来るなら、より市民に愛されるのではないでしょうか？今回の東京都美術館のような展覧会（「現代の写実－映像を超えて」）が増えていくと、日本の美術界ももっと変わるような気がします。
（委員）
収蔵作品展のチラシの件については、良い試みだと思います。私が所属する施設でも昨年、「収蔵庫からお中元」という展覧会を開催したのですが、「何を展示するのか分からない」とのご意見をいただきました。収蔵品の中から「これは」という資料を選定しているのですが、なかなか伝わらないものですね。ただ、何回か続けていくうちに、展覧会の意図するところをご理解いただけると考えています。
「アート・プロジェクト事業」については、参加される方それぞれの思惑がある中、館としての目的、目標を周知させていくのが大変ではないかと思われます。ボランティアが和気あいあいなのは結構ですが、いつの間にか仲良し倶楽部に変質しないように注意が必要かと思われます。
「佐倉ゆかりの作家展」についてですが、美術館で開催される展示について、市内の文化施設のエントランスなどでミニ展示すると良いかもしれませんね。有料無料問わず、音楽ホールに音楽を聴きに来た方が、ミニ展示を観て、「これ、観に行ってみようかな」と思われるようなきっかけを作る、現在では人を呼ぶためには美術館で待っているだけでは駄目で、外に打って出ることが肝要ではないかと思われます。千葉県立美術館のように、この美術館も収蔵作品を１０点くらい、「移動美術館」として他の自治体の施設で展示するのも周知を図るうえでの効果的な方法の１つかもしれません。

（美術館）
良いアイデアをいただき、ありがとうございます。昨年度、「カオスモス５」では全て借用作品であったため、他施設での作品の展示は難しかったのですが、市内の図書館において、ポスターと出品作家や現代美術に関係する書籍によってコーナーを作り、企画展の周知を図りました。

（３）平成２９年度事業について（資料６～７頁）
＜事務局より説明＞

（会長）
平成２９年度事業について、説明していただきましたが、何かご意見はございますか？平成２８年度事業の報告で見えてきた問題点をふまえ、新たな可能性について提言していただけると有難いのですが。
（委員）
「ミテ・ハナソウ展」の入場者２，６０９人とありますが、子どもの比率はどのくらいですか？
（美術館）
ボランティアが行っているトークの参加者については、統計を取っているのですが、子どもが１４９人、中学生以上が１６５人となっております。
（委員）
学校によっては夏休み中、地元の美術館の展覧会に行くことを宿題としていることがあるようですが、「ミテ・ハナソウ展」では何か学校に働きかけているのですか？
（美術館）
「ミテ・ハナソウ展」では、市内の小・中学生全員にスタンプが押せるカードを配布しています。それはより多くの動員を促すためのものですが、先生方の中には夏休み中、美術館に行って何か感想を書かせる宿題を出す方もおられるようです。
（委員）
今回、「柴宮忠徳展」に合わせて、「ミテ・ハナソウ展」が開催されているのですが、柴宮忠徳の作品は対話型鑑賞に適しているのでしょうか？
（美術館）
はい、これまで２回の「ミテ・ハナソウ展」にも出品していますし、収蔵作品展でも多くの対話がうまれました。具象的で、作品に多様性のある点が適していると思われます。

（委員）
「ミテ・ハナソウ展」は他の美術館から見学に来ませんか？
（美術館）
はい、何件かお申し込みは頂いております。
（会長）
「自転車の世紀展」については如何ですか？
（委員）
一味違う展示　楽しみに待っております。自転車の過去、現在だけでなく、自転車の未来の姿を紹介する点は興味深いですね。
（会長）今年も収蔵作品展「浅井忠と弟子たち」が開催されているのですが、少しマンネリ化しているという感じはありませんか？
（委員）
最近、マークが似ているということで、千葉市が初音ミクを期間限定で起用したら、その日のアクセス数が飛躍的に伸びたそうです。千葉県立美術館ではフィギュアの展覧会を開催しています。こういうことを見ると、美術館とか、絵画とか、陶芸とか、枠に縛られない方が、敷居が高くない方が色々な方に来ていただけるのではないかなと考えてしまいます。「自転車の世紀展」もそうですが、美術館に行かない人たちにアピールする良い機会ではないかと思います。佐倉の人たちは浅井忠と聞くと、「ああ、浅井忠ね」という反応かもしれませんが、子どもたちは浅井忠を「佐倉学」をとおして学んでいることもあって、文化として頭の片隅に常にあるのかもしれません。
（委員）
私は佐倉に来て、あまり時間が経っていないので、浅井忠についてはあまり詳しくありませんでした。この美術館で定期的に浅井忠を紹介しておられるのは、とてもありがたいと考えております。
（会長）
「カオスモス」は毎年開催しないのですか？ビエンナーレ（隔年開催）ですか？
（美術館）
当初はビエンナーレだったのですが、２００３年度に県外からゲスト作家を呼ぶことになってからトリエンナーレ（３年に一度）になっています。最近は不定期開催ですね。
（委員）
この企画展もここでしか出来ていない意欲的なシリーズだと思われますので、是非続けてください。
（美術館）
ありがとうございます。

（美術館）
平成２８年度の「カオスモス５」を開催する際、空調の改修工事が終わってから準備を進めると、３月からの開催になってしまうため、美術館としては４月以降に会期を延ばすことを希望したのですが、市役所のシステムとして難しいということになりました。そのことについて、前回の運営協議会において、他の美術館の状況を報告するように、とのご指摘をいただきましたので、今回、複数年度に渡る展覧会の開催について調査しましたので、ご説明させていただきます。
（会長）
この調査の出発点は、「カオスモス５」開催の前に行われた工事の関係もあったのですが、春の動員数が見込める時期に２４日間という極端に短い期間であったため、なんとか検討してください、とお願いした次第です。
一般的には、直営は制約が多く、指定管理は制約が少ないという印象なのですが、今の説明では必ずしもそうではないようですね。
（委員）
指定管理については、管理期間が３年から５年ではないかと思われます。契約の更新時期に前の指定管理者が取れなかった場合、一旦切れてしまいます。その狭間で行政側が「毎年、年度をまたいでやっているのに、なんで更新時期だけやらないのか？」と聞いた結果、「では毎年、年度をまたがずに事業を組んでください」と要望することも考えられます。そうなってくると、指定管理の方が複数年度に渡る展覧会の開催は難しいかもしれません。本来、指定管理の方が市町村の条例をある程度対応しながら、尚且つ、はみ出せる枠があり、自由に動くことが出来るというのがメリットだったのですが、今やそうではなくて、自治体が、指定管理者に任せれば、年間３億円かかっていた運営費が、もっと安く済むというお話になっています。
（会長）
それは指定管理という制度の問題点ということですね。佐倉市の場合は直営なので、複数年度に渡る開催は可能なのではないかと思われます。
（委員）
この周辺には城址公園もありますし、桜の時期には集客が見込めますよね。
（委員）
私が以前所属していた美術館も基本的には単年度の事業開催が好まれましたが、新聞社との共催事業であったり、全国を巡回する流れであったり、例外もあったと思います。行政に対して、「こういうメリットがある」という提案をなさると良いかもしれません。

複数年度に渡る事業開催について、私立美術館や国立美術館の事例を調べ、どのような利点があるか、まとめてください。
※「検討事項１」

（会長）
東京都歴史文化財団という指定管理団体があります。複数年度の事業開催についても、何の拘束もなく、自由に計画を立てています。それが時代の潮流のような気がいたします。ここで皆さんにご意見をいただきたいのは、単に動員数が多くなるからという理由だけではなく、一歩踏み込んで、複数年度に渡る事業開催の理由について、何かございませんか？
（委員）
まず、市民サービスが第一に考えられるべきだと思うのです。桜を鑑賞するなど、外出するのに適した季節において、市民にどれだけ施設を開放できるかという視点を持っていただけないでしょうか。
（委員）
外から佐倉市を訪ねてきた人に開放できているか、ということも重要ではないでしょうか。佐倉市では春にどのような観光イベントを開催しているのですか？
（美術館）
４月に「佐倉フラワーフェスタ」という花のイベントが開催されています。城址公園の桜や、風車を背景に関東最大級となる６５万本のチューリップによる大規模なイベントです。
（委員）
「佐倉」ではなく、「桜」ゆかりの展覧会を企画するのも面白いかもしれませんね。
（会長）
佐倉市が春に行う事業と連動する展覧会を考える、ということが解決策の一つになるかもしれません。今後も市との連携をより深めて運営していただければと思います。
本日はありがとうございました。
（美術館）それでは、議事はここまでとなります。
【閉　会】

※「検討事項」として下記の１つが挙げられた。
①「複数年度の展覧会開催」について、国立美術館や私立美術館の事例も調査し、どのような利点があるか、まとめること。